

消防団長紹介



阪南市消防団 団長 北野 竹次

阪南市は、北を大阪湾に面し、南を和泉山脈と接しています。和泉山脈から流れ出る河川が形成した平野部が古くから生活の場となっています。著名な紀貫之の「土佐日記」にも、「箱の浦」（現在の箱作付近の海岸）を通過したときの様子が歌とともに記されています。近世に市内に属していた村は14ヵ村で、尾崎・下出等の10ヵ村が「鳥取庄」としてまとまり、残りの箱作等の4ヵ村は「下ノ庄」に属していました。このまとまりはこの後、現代の行政単位まで大きく影響を与えることになり、この時期には、綿織物や瓦の製造業、石切り業等、この地方特有の新しい産業が生まれてきました。このうち、石切り業は和泉砂岩が市内の各地域で産出することから、石を加工する職人「石工」が多数存在し、全国各地にも出稼ぎに行き、活躍していることが、史料や実際の作品によって確認されています。また明治30(1897)年に南海鉄道が尾崎まで延び、1970年前後から大阪市のベッドタウンとして人口が急増し、昭和47(1972)年10月に阪南町が誕生しました。そして、平成3(1991)年10月に市制を施行し、阪南市として今日に至っています。また、産業につきましては、山中溪の桜、歴史街道やびちびちビーチ、泉ダコ、のり、わかめ、水ナスなどの農水産物や日本酒、和牛、牡蠣の養殖など観光の呼び込みにも力を入れております。

阪南市消防団は、昭和14年尾崎町、東鳥取村、西鳥取村、下荘村で警防団が設置され、昭和22年警防団から消防団となりました。昭和31年尾崎町、西鳥取村、下荘村が合併し南海町となり、南海町消防団、東鳥取村消防団が設置され、昭和35年東鳥取村消防団から東鳥取町消防団となり、昭和47年南海町と東鳥取町が合併し阪南町となり阪南町消防団となりました。その後、平成3年市制施行により阪南市消防団となりました。

現在、団員定数115人、5分団で構成しております。

活動状況としましては、火災出動はもとより台風や大雨などの自然災害時には、消防団本部は、市の災害対策本部とともに活動し、各団員については、団長の指示があり次第いつでも出動できる状態です。

私は、昭和52年阪南町消防団に入団以来、平成12年分団長、平成14年副団長、平成24年には団長に就任いたしました。平成28年5月からは大阪府消防協会泉南地区支部長に就任しています。また、平成18年大阪府知事消防勤続功労章、平成19年消防庁長官永年勤続功労章、平成24年大阪府消防協会功績賞、平成25年藍綬褒章、平成26年日本消防協会功績章、平成27年阪南市功労者表彰をいただきました。

消防団活動において記憶に残っている出来事としては、平成2年8月31日早朝、管内箱作地区の関西国際空港建設用地土砂採取現場を狙った中核派によるゲリラ事件で発生した山林火災です。出火箇所が山道より約200メートル入った急斜面の山腹で、現場到着時には、連日の晴天続きで乾燥しきった草木が音をたてて激しく燃焼し、さらに折からの西南西の風に煽られ、山腹に向け広範囲に延焼拡大しました。延べ4日間にもおよび消火活動を展開し、山林約50ヘクタールは焼失したものの心配された山裾に広がる住宅や学校等への延焼を阻止し、人命に危害なく鎮火させました。

私は、忙しい仕事の合間を縫って趣味のゴルフ（シングルプレイヤーです）を楽しんでおります。

令和2年度より女性消防団員を募集し、消防団活動の充実を図る予定をしております。今後も阪南市地域住民のため頑張っていきます。